

# 誰もが安心して暮らせる街をつくる



特定非営利活動法人  
日本ガーディアン・エンジェルズ熊本支部  
支部長  
**谷口 正也**さん



真つ赤なベレー帽にブルゾン、真つ黒な絞りのズボン。何とも目立つこの服装は、市民によるボランティアでの防犯組織『ガーディアン・エンジェルズ』の制服です。米国ニューヨークでスタートした活動で、目的は安全安心なまちを作ること。その精神を受け継ぎ、谷口正也さんは、平成19年に熊本支部を立ち上げました。

その活動はパトロールだけでなく、子どもの安全セミナー、働く女性のための防犯セミナーなど、様々。目立つ姿でのパトロールは、一般の人に安心感を与え、犯罪者に抑止力をもつという効果があります。「街を歩いていると、外国や東京の人に『ガーディアンですね安心です』と声をかけられるんですよ。」

「本当はもっと若い人に参加して欲しい。活動のほとんどはコミュニケーション。話し合いで解決するためのコミュニケーション力が磨けます。そして、人の役に立てる素晴らしさを感じて、自分たちで街を守る意識をもつ人になってほしいですね」と、笑顔で話してくれました。

## PROFILE

福岡県出身。えびすファミリー(恵比寿物産株式会社)代表、酒場通り繁栄会会長。平成18年熊本市に「犯罪を防止し安全で安心なまち熊本市をつくる条例」が出来たのをきっかけに、平成19年、日本ガーディアンエンジェルズ熊本支部を立ち上げる。他にも「YOSAKOIまつり」に参加するなど、まちおこしにも参加。

まわりの  
**見習い編集員の目**

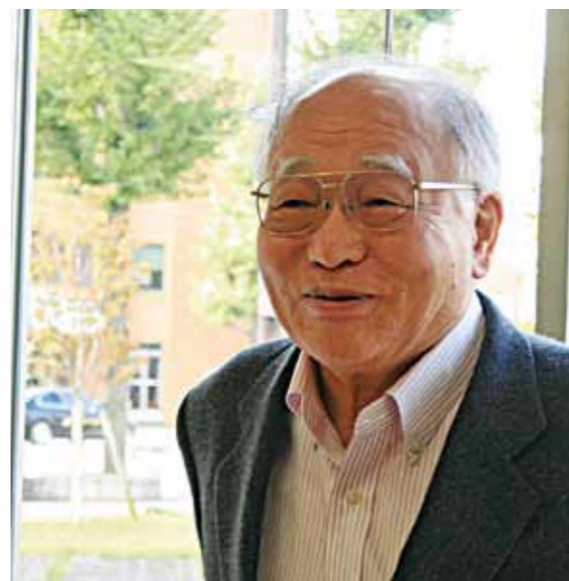
**熊本、世界の安全・安心を守る**

熊本市立大学 吉田 優里奈

ガーディアン・エンジェルズの活動は、落書き消し、防犯パトロールなど。それらを仕事をしながらボランティアでやっていることに驚きました。

ボランティアは一般的にお年寄りの方の参加が多いので、若い人が積極的にボランティアができる場所を作りたいという思いが団体設立のきっかけだそうです。確かに若い人たちのボランティアがメディアで紹介されることも多くなったけれど、まだまだ少ないと思います。実際、熊本支部のメンバーの平均年齢は40歳です。谷口さんは、学生、女性大歓迎とおっしゃっていて、自分も参加してみたい気持ちになりました。

# 移住者と共に熊本の活性化を



一般社団法人ACTくまもと  
代表理事  
りょう けいきち  
**寮 慶吉**さん



被災者支援に関する情報はホームページで提供

『ACTくまもと』は東日本大震災で被災し、東日本から熊本に移住してきた人々を支援する団体。なぜ熊本で、なのか? 代表の寮慶吉さん曰く、「目の前に転んで困っている人がいる。そうしたら手を差し伸べるでしょう。それと同じだよ。」そして、平成24年3月11日に起きた未曾有の大震災からわずか2週間後の3月25日に、前身の『熊本被災者支援プロジェクト』を立ち上げたのだそうです。

「私たちは行政に陳情をするのではなく、常に提案をしてきた。厳しいこともどんどん行政に言うからきつと嫌がられてたでしょうね。またうるさいオヤジが来たな、つて。そう言つて笑う寮さんですが、働きかけが実り、現在では行政も積極的に関わっているそうです。さらに当初は、住宅や就職の斡旋が主な業務でしたが、現在では熊本の旬の野菜を通信販売する『ひごべじ』や、キャリアマッチング、デザイナーズバンクなど自ら雇用を創出するまでに事業を拡大。『ひごべじ』プロジェクトでは、既に

## PROFILE

名古屋市出身。一般社団法人ACTくまもと代表理事。東京で25年ビジネスコンサルタントとして働き、65歳で退任し熊本へ。その約1年半後、東日本大震災を見て支援団体を設立。ACTはアクションのことで、自ら行動する団体という意味で名づけた。

東京・恵比寿に『熊本マルシェ』を出店、商品開発の企画も進行中です。助けてもらうのではなく、被災者が自立できなければ真の復興はない、と寮さん。

目標は「スタッフの今までの経験を活かして熊本に外部からの風をもたらし、かつ熊本の良さを外部に発信し、熊本を活性化させること」。初めは被災者だった人びとが移住者となり、熊本の自然や人に触れ、このまま定住したいという人も増えているそうです。避難者という枠から移住・定住者としての活動、さらに新しい熊本市民として活動する人を支える団体でありたい、と最後に力強く語ってくれました。

# まちば もりあげ 隊

校区を越えて、いろいろな取り組みで「まちを元気に!」する元気な人たちが、中央区にはたくさんいます。ユニークなアイデアで、まちを盛り上げている人々をご紹介します!